

野地文庫だより

国語文化教育学講座 2010.7.8 第1号

広島大学野地潤家 文庫開設準備

広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座では、2008年に、野地潤家先生から蔵書ご寄贈のご意向を承り、広島大学野地潤家文庫開設の準備を開始いたしました。

まず、2008年7月25日に、吉田裕久教授、山元隆春教授が野地先生のお宅を訪問し、受け入れの計画を相談いたしました。

次に、教育学研究科から資料室を借り受け、5000冊を収納する書棚を設置いたしました。

2009年度から実際の資料の受け入れがスタートしました。4月26日に第1回の搬送作業を行いました。以後、原則毎月1回、教員2名、院生2名が車2台で出かけ、段ボール約10箱分をワゴン車に載せて、搬送します。2010年6月までに13回を数えました。（下記ホームページをご覧ください。）

野地文庫設置準備基金の開設

2009年12月には、「広島大学野地潤家文庫設置準備基金」を開設し、寄附を募ることといたしました。2010年4月には、広島大学国語教育会のうち『国語教育研究』講読会員の皆様にご寄附をお願いしたところ、これまでに70名を超える方々からご寄付いただいています。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kkgbunka/NojiBunko/NojiBunko.html>



受入作業の経過

野地文庫の受け入れ作業の経過を国語文化教育学講座のホームページで随時写真なども交え紹介しています。

（抜粋）
第12回 10/05/16 院生2名、教員2名で行いました。今回から、作業の後の休憩時間の野地先生のお話を、許可を得て録音させていただいています。こちらも広島大学野地文庫の資料として保存する計画です。

第11回 10/04/03 第11回作業を教員2名、院生2名で行いました。今回は、最初にお宅に建てられた第1書庫から搬送しまし

た。保科孝一の一連の著書、『幼児期の言語生活の実態』の元原稿など、今回も貴重な資料をいただきました。

第10回 10/02/28 院生3名、教員2名で行いました。今回は、先日修士論文を書き上げ、この春に大学院を修了する博士課程前期の3名が手伝ってくれました。大学生生活を締めくくる出来事となりました。帰り際に、いただいた伊予柑を手に、書庫を案内していただきました。「伊予柑を手明かりに入る野地文庫」

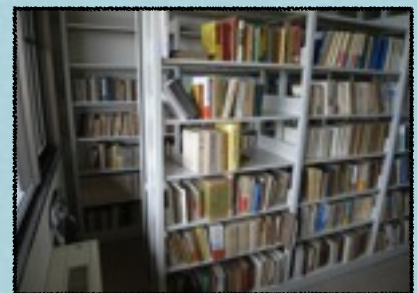
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/~smase/logos/NojiBunkoJunbi/NojiBunkoJunbi>



作業後の談話の風景 書庫での梱包作業の後には、野地先生からお話をうかがっています。資料のご紹介、学生時の授業の様子など、お話も野地文庫です。



野地先生と奥様 奥様にはいつもお茶をごちそうになります。談話に加わってくださることもあり、奥様の視点からのエピソードをご披露いただいています。



広島大学野地潤家文庫の現在 教育学研究科B棟4階に野地文庫が設けられました。約5000冊収納の書棚が1年間の受入作業で、ほぼいっぱいになりました。